



まほろばの丘から



令和3年12月2日 文責 校長 江口 尋信

交通事故から「命」を守る

本年6月に千葉県八街市で、下校していた児童の列にトラックが突っ込む交通事故が起きました。小学生が犠牲となる大変痛ましい事故でしたので、皆さんも記憶に残っているのではないかと思います。実は、本校の近隣地域においても小学生が巻き込まれた交通事故が発生しています。

内閣府の統計によりますと、1年の中でも、3月から6月、10・11月が小学生の交通事故が最も多い期間だそうです。3～6月は、新学期となり新しい友だちができたり、行動範囲が広がったりすることが交通事故の原因でないかと言われています。10・11月については詳しい分析はなされていませんが、日の暮れが早くなり、見通しが悪くなることが原因ではないかと思っています。福岡の日の入りの時刻は10月には午後6時だったのが、11月には午後5時半、12月には午後5時となります。自動車を運転した経験がない子どもたちにとって、運転者から前方が見えにくくなることは理解しようがありません。また、学年別に見ますと、交通事故の6割が低学年（小学1・2年生）で、死者・重傷者数も低学年で5割を占めるのだそうです。小学1・2年生にとって、周囲を見渡しの確に交通状況を判断することは難しいのだと思います。

幸いにして、現在のところ、本校児童の生命に関わるような交通事故は起きていません。このことは、登校時及び下校時に地域の方や保護者の方が児童の安全を見守ってくださっているおかげだと思っています。しかし、一方、子どもたちに、交通事故から自分の命を守ろうとする態度や力を育てていく必要があるのではないかと思います。学校では機会を捉えて校内放送で交通安全について呼びかけたり、各学級で安全に関する指導をしたりしています。ぜひ、各家庭でも、以下のような点をご指導ください。

＜ご家庭で指導していただきたいこと＞

- 午後5時には家に帰り着くようする。(暗くなる前には帰宅しよう)
- 横断歩道ではないところを横断しない。
- 道路、交差点を横断する際には必ず自分で左右を確認する。
- 停車している車の前後を横切らない。



「ことば」について

先日、SNSを使ってある人物を誹謗中傷した人が特定され、逮捕されたという報道に触れました。みなさんは「言葉」の語源をご存じでしょうか。調べてみると、「言葉の語源は、『言(こと)』+『端(は)』の複合語である。古く、言語を表す語は『言(こと)』が一般的で、『ことば』という語は少なかった。『言(こと)』には『事』と同じ意味があり『言(こと)』は事実にもなり得る重い意味を持つようになった。」とありました。気になるのは傍線部です。根も葉もない誹謗中傷は、さも事実かのように受けとめられ、言われた人を傷つけ苦しめることとなります。時には、人の命さえ奪うこともあります。

本校では、「だ・に・し・(っ)こ」の「こ」を「心をつなぐ言葉」として子どもたちに指導しています。「言葉」は、時として「言刃」となり、人と人の関係を切り裂くこともあります。しかし、「一緒に遊ぼう」「大丈夫だよ、元気を出して。」「頑張ったね。」等、人と人のつながりを強く、確かにする豊かな「言葉」もあります。これが「心をつなぐ言葉」です。子どもたちの言語環境はわたしたち大人です。私たち自身が「心をつなぐ言葉」を使いたいものです。